

「自立に向けて必要な力とは」
～ 大学受験に向けた準備からの考察 ～

愛知県立港特別支援学校
商業科 3年

大徳屋 諒

はじめに

高等部3年生になり、私は就職と進学で迷ってきた。しかし、家族の勧めもあって、大学に進学することを決めた。大学に合格することはもちろん大切なことであるが、新型コロナウイルスによる臨時休校が終わり、分散登校後すぐに行われた進路面談で、合格しても通学手段や学校生活全般の準備不足によって、大学に通えないかもしれないということに気づかされた。それは、大学を受けると言いながら、私はその大学がどこにあるのか、自分はどうすれば学習環境を整えられるのか知らなかったからだ。そして、大学までの行き方も当然のことながら言えず、全く違う駅名を口にするような状況だった。大学に進学しない友人でさえ知っていた情報を、私は知らなかった。受験することや大学生活を送ることが可能なのかどうか、少しずつ現実を知り、不安になってきた。

そこで、大学生活を楽しく、充実したものにすするため、大学について調査し、身につけるべき力にはどのようなものがあるのか、考えることにした。

第1章 調査研究の概要

1 現在の問題点

まず、自分自身が問題だと感じていることをリストアップした。

大学生活が実際にどういうものか、ほとんど情報をもっていない。また、イメージがわからない。

大学までの道のりを、公共交通機関を使って車いすの自分が一人で通えるのか。そもそも、一人で出かけた経験さえない。

大学内で困ったときの支援や身体介護はどうすれば良いのか。

授業の講義は、どの程度聞き取れるのか。聴覚障害もあるため、大勢の中で情報を聞き取り、学ぶことができるのか。

人数が少ない支援学校にいても、発言することが苦手で、大勢の中で依頼ができるのか。また、友人を作り、楽しめるのか。

2 問題解決に向けた準備

大学生活で出てくる問題点を解決するために、どのようなやり方があるのか考えた。

(1) インターネットでの調査

インターネットでの情報収集のメリットは、情報が新しく無料という点がある。

デメリットは、情報量が多いが間違った内容も多くあり、すべてが正しい情報ではないことである。

(2) 口コミ

口コミのメリットは、実際に通っている人や卒業した人などからの情報が多く、情報としては個別の意見から細かい情報を得ることが可能になる。

デメリットとしては、なりすましによる書き込みがあることや意見が偏りがちにな

ることにより、正しい意見と正しくない意見の区別がつきにくい点である。

(3) 実地調査

実地調査のメリットは、自分の目で見て確認ができる点である。そして安心感がある。

デメリットは、移動や相手の都合に合わせて必要があり時間的な効率が悪い点である。

(4) 電話

電話のメリットは、聞きたいことが決まっているときには、正確な情報をすぐにももらえる可能性が高い。

デメリットは、相手の表情が見えない状況でやりとりをすることだ。また、私の聴力では相手の声のトーンから感情が変化したことに気づけないため、細かな情報を的確な言葉を選んで質問できない点である。

以上の4点のメリットとデメリットを知った上で、まずは、誰に何を聞くのか、どのような手段を使うのか、分類することにした。

3 大学についての調査方法の分類

内容	手段	詳細
大学生生活	インターネット	HP 口コミ ブログ
	電話	
通学	インターネット	
	実地調査	
支援	実地調査	面談
		オープンキャンパス
情報保障	実地調査	面談
	学校で体験	

内容によって、調査方法を使い分ける必要性があると改めて理解した。

第2章 私の特性

自分について、理解しているようで、意外に知らない部分がある。そこで、周囲の人に協力をしてもらい、アンケートを実施した。

(1) 対象：生徒6名、教員4名

(2) 方法：記述式

(3) 回収率：80%

結果は次のとおりである。

1 性格

性格は行動、認知、情動パターンの特徴的な集計として定義される。今回のアンケートでは、選択肢を用意して集計を取った。

それによると「真面目」6名、「優柔不断」2名、「おとなしい」「神経質」各1名という結果だった。

質問は8項目だったが、意見が集中した。自分自身では「優柔不断」であり、「献身的」だと思っていたため、予想と異なっていた。

「真面目」は、生徒会長として仕事に責任をもってやっていたり、先生の指示に従って動いたりするところから評価されているのだと推測した。「優柔不断」は、自分では意見を発言したと思っていたても、決定までに時間がかかっていたり、周囲の顔色を見過ぎる傾向があったりする。それが結果につながっていると予測する。また、「献身的」が0名だった理由は、周りの人も他の人に対して、優しくしたり、気遣ったりしているの、特別なことという認識がないのだろうと考えた。

項目	人数(名)
献身的	0
優柔不断	2
おとなしい	1
神経質	1
真面目	6
小心者	0
几帳面	0
お人よし	0

2 行動力

行動力に対する質問は自由に記述してもらった。その結果、下記のような意見が書かれていた。

<良い>

- ・授業で自分から手を挙げられている。
- ・何事も積極的にできている。
- ・自分から「僕がやります」と言えるのは素晴らしい。
- ・大学の見学に向け、自分で質問を作ったり教科の課題を計画的に進めたり、係の役割を果たしたりできることが素晴らしい。

<改善>

- ・周りの空気を読むと良い。
- ・嫌な事を言われたら言い返した方が良い。
- ・深く考えずに動いている。
- ・発表時、言葉に詰まることが多いので、落ち着いて話すが良い。
- ・大学進学に必要な情報（どんなことを学ぶのか、大学の場所や入試について）を自分で調べたり、ひとりで電車に乗ったりという行動がさらに必要だ。

私は、今までに様々な活動を行ってきた。皆さんは、自分のことをよく見ていることが分かった。改善点については、意識をして少しずつ変えていきたい。

3 障害によってできていないこと

障害によってできていないことはどんなことがあるのか、客観的な意見を同じように記述式で書いてもらった。その結果は、下記のとおりである。

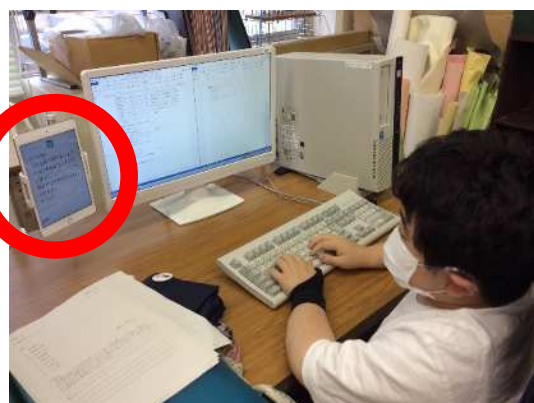
- ・耳の聞こえによる情報収集。(4人)
- ・物が拾えないこと。
- ・できるはずだがやっていないこと(電車に乗る、話題に上がった様々な場所に行く等)が多く、経験値が少ないこと。

<改善できた点>

- ・トイレに自分で行けるようになった。
- ・トイレや物を拾うといった物理的な問題は工夫によりできていることが。

私は肢体不自由のみではなく、聴覚にも障害がある。自分では、あまり問題なく過ごせているように感じていたが、周囲の人は聞こえによる差を知っているようだ。

「耳の聞こえ」に関しては、聴覚支援アプリを使用して聞き漏らしがないように練習している。また、「物が拾えないこと」は、今年、お店に売っていることを紹介され、マジックハンドを購入した。現在は、車いすに常時設置し、小さい物や軽い物を拾う練習を行っている。重い物は拾うことが難しいので、物を落とさないような物の配置や工夫を考えていきたい。



iPadに文字を表示して情報をつかむ



マジックハンドで落とした消しゴムを拾う

第3章 楽しい大学生活にするために

大学は、学問を学ぶ場所である。まず、その授業がしっかりと受けられる体勢が必要であると考え。そこで、どのような問題があるのか考えてみた。

校舎内の移動時間

身障者用トイレの場所

机の高さや広さ

遅刻をしたときの対応

この問題を解決するために、私は大学へ見学に行き、直接質問をした。その回答は、以下のとおりである。

(1)生活面での問題

トイレ・机・ドアに関して

トイレは、私の車いすより若干低いが、車いすの座面前方に移動することで用をすませることができた。

また、トイレ内のスペースは車いす1.5台分のスペースになっており、車いすを回転することは厳しいが、入り口から入るときに気を付ければ自由に移動できた。トイレは自力で可能だと分かった。

エレベーターに関して

エレベーターの中は広く、1～6階までのボタンはとても大きくて押すことができた。しかし、開閉ボタンが微妙に高くて押しづらかった。そのため、開閉ボタンはボールペンなどの短い棒を使うことが必要だと感じた。

食堂を利用する際に関して

食堂を実際に見ることはできなかったが、説明によると車いす用の机があり、なおかつトレーなどは運ぶことをお願いすれば、一人でも学食を食べられることが分かった。

(2)受講面での問題

聴覚障害のサポートに関して

聴覚障害については、聴覚障害支援アプリ「SpeechCanvas」を使用する際、障害を支援してもらうための書類を各教授に書いて承諾を得れば使用できるようになることを確認できた。

教室に関して

私の車いすは大きいですが、車いすの高さと机の高さはほとんど差がなく、ほぼすべての机に入ることが分かった。

しかし、机に車いすを入れるために、机を前にずらす等の支援が必要であった。人に頼むなどの場面が生じると分かった。

(3)その他の問題

サークルに関して

障害により、こういった形で参加しているのかを聞いてみた。それによると、それぞれ入りたいサークルに入り活動していた。私が不安に思ったトラブルもほとんど起こってないようだ。

直接話を聞くことで、不安は解消された。しかし、相手に依存するだけでなく、自分自身も改善や工夫を行っていく必要性を感じた。

第4章 情報保障について

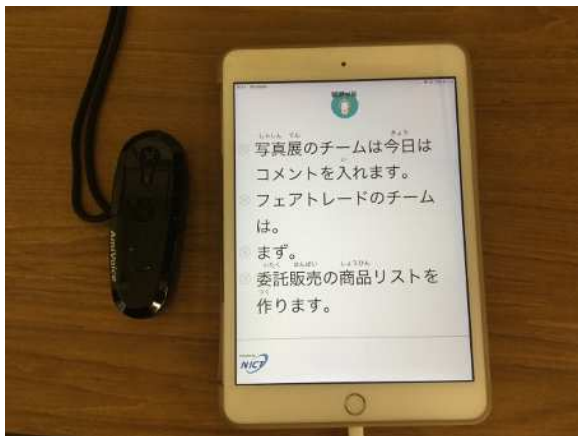
講義では、内容を理解する以前に、情報をつかむ必要がある。大きな集団の中で、90分間という長時間の講義を聴き取り続けることがイメージできない。情報保障の受け方について、たまたまアプリを使用した方法があることを教えていただいた。先生の協力を得て、コミュニケーションアプリを使った、講義を体験することにした。

今まで聞こえについて、あまり意識をしてこなかった。普段の生活で、補聴器の大切さは理解している。しかし、それだけでは授業での先

生の言葉のすべてを聞くことができないことはイメージになかった。大学では、現在の小集団とは異なり、大きな教室で授業を聞くことを知り、自分にとって必要があることだと初めて理解できた。

1 アプリの使用方法

長時間の講義に対して、「SpeechCanvas」というアプリを使用することにした。話をする人にマイクを使ってもらい、bluetooth（近距離無線通信）でつなぎ、自分の手元のiPadへ表示させるしくみである。これには、当然話をする教授に協力をしていただく必要がある。



指示内容が文字表示された画面とマイク

2 アプリの使用によるメリット

マイクを利用し、iPadの画面に表示することで、情報がほぼ視覚化され理解が深まる体験を授業内で経験した。これをうまく活用することで、多くの情報がつかめると考える。また、自分以外の人に対して話している内容も分かったとき、「こんな話をしていたのだ」と率直に驚いた。他の人は、何気ない雑談や自分以外に話した内容から情報を得て、行動をしているのだと初めて気づかされた。

おわりに

私は、大学へ学びに行くため、自立について調

べ、考えてきた。その中で、普段はなかなか聞くことができない、自分が他者からどのように見られているのかを知ることができた。人とかがわかる上でも大切な情報になった。協力してくださった皆さんに、感謝をしている。

改めて、私の課題はたくさんあると知った。皆さんからのアンケートでは、

言うべき意見はきちんと伝える

場の状況を読む

考えて行動する

言葉を整理してから話す

主体的に動き、情報をつかむ

ことを教えていただいた。

それを踏まえて、特に私が改善しなければならないと感じた点は、聴覚障害支援アプリを活用して、広く正しい情報を収集することができるようになることである。そうすることで、主体的に物事を考え、行動できる範囲が広がっていくと考える。残り少ない学校生活であるが、ひとつずつ解決策を考え、実行し、改善を図っていきたい。

今回の研究で、世の中には便利なグッズや障害者支援アプリなどがあることを知った。今まで、とても狭い世界で生きてきたことを改めて実感した。周りに自分から興味をもち、周囲とよい関係を築いて、大学生活を楽しめるようにしたいと思う。